

# だて 伊達 宗城 (1818~1892)



宇和島伊達家第8代藩主。江戸(現、東京都)の旗本・山口直勝の次男として生まれる。後嗣のなかった宇和島藩主・伊達宗紀の養子となり、天保15(1844)年、8代目藩主となった。2年後の帰藩後から先代に続いて藩政改革を推進、10年余りにわたって殖産興業、文武教育の振興、富国強兵と洋式兵学の導入などを進めた。特に蘭学の導入を積極的に図り、二宮敬作を重用し、高野長英や村田蔵六を招いて、蘭書翻訳、蘭学教授、砲台設計、軍艦建造などにあたらせた。幕末期には、將軍継嗣問題などの幕政にも関与して一橋慶喜將軍擁立派の一員として動き、安政の大獄に関係して隠居したが、幕末四賢侯の一人に数えられるほどの開明的な発想の持ち主であった。

明治政府では、明治2(1869)年、民部卿兼大蔵卿となって鉄道建設のイギリス借款に尽力、明治4(1871)年、全権として天津で日清修好条規を調印、日清間の対等条約として注目された。その後、公職は退き華族会館第一部長、修史館副総裁などを歴任した。

## 略歴

- |                     |   |
|---------------------|---|
| 文政元(1818)年8月1日      | 旗本の山口直勝の次男として生まれる。  |
| 文政12(1829)年4月13日    | 宇和島伊達家第7代藩主の伊達宗紀の養子となる。   |
| 天保15(1844)年7月26日    | 宇和島藩主となる。   |
| 嘉永元(1848)年          | 高野長英を招き、蘭書の翻訳や教授などを行わせる。  |
| 嘉永6(1853)年          | 村田蔵六を招き、蘭書の翻訳や教授、軍艦建造などに携わらせる。  |
| 安政4(1857)年          | 將軍継嗣問題が起こり、松平慶永・山内豊信・島津斉彬とともに一橋慶喜を推し、和歌山藩主・徳川慶福を推す南紀派と翌年まで対立する。       |
| 安政5(1858)年11月23日    | 安政の大獄に関係し、隠居。宗徳に家督を譲る。  |
| 文久2(1862)年11月12月18日 | 京へ上るよう勅命が下る。<br>入京。以後、同3年、慶応3年3月、12月と4度の勅命による上京をし、その間幕政参謀や朝政参与を命じられる。 |
| 慶応3(1867)年          | 新政府の議定となる。以後、明治2年までに、軍事参謀・外国掛・外国事務総督・大阪裁判所副総督・外国官知事・参議・民部卿・大蔵卿を歴任     |
| 明治4(1871)年5月        | 清国への欽差全権大臣となり、日清修好条規を締結   |
| 明治25(1892)年12月20日   | 東京府今戸(現、東京都台東区)の自邸において75歳で永眠。墓所は東京都台東区谷中の谷中墓地、遺髪を宇和島市野川の等覚寺に埋葬        |

(写真提供：公益財団法人宇和島伊達文化保存会)

### 〈関連図書〉

- ・愛媛県史編さん委員会『愛媛県史 近世下』 愛媛県 1987年
- ・愛媛県史編さん委員会『愛媛県史 人物』 愛媛県 1989年
- ・日本史籍協会『伊達宗城在京日記』 東京大学出版会 1995年
- ・楠精一郎『列伝・日本近代史 伊達宗城から岸信介まで』 朝日新聞社 2000年
- ・神川武利『幕末最後の賢侯 伊達宗城』 PHP文庫 2004年
- ・宇和島教育委員会『宇和島伊達家関係史料調査報告書 平成11~16年度宇和島市史料調査』 宇和島市教育委員会 2005年

〈主な収蔵資料〉…(P202, 36)

〈ゆかりのある場所〉…(P276, 50~51)

〈関連施設〉…宇和島市立伊達博物館

〒798-0061 愛媛県宇和島市御殿町9番14号 TEL: 0895-22-7776

宇和島城

〒798-0060 愛媛県宇和島市丸之内1 TEL: 0895-22-2832